

(atypical dysplasia)と診断した症例, すなわち, 細胞異型および核異型の高度な症例76例については, 観察期間1年をこえるもののうち, 10例の癌化例があり, その他に11例の上皮内癌に移行せる例があつた. この高度異型の症例40例に NGF (neurogrowth promoting factor) を投与してその影響を検討すると, 7週後には過半数が消失し, 持続例でも, ほとんどの症例に病変の熟化 (maturation) を認めた. われわれの分類による上皮内癌8例ではほとんど効果を認められなかつた.

#### 126. 子宮頸部の上皮異常の追跡に関する研究 (第1報) (追跡観察知見と早期浸潤癌の周辺像を中心として)

(山口大)

藤生 太郎, 鳥越 正, 有住 裕

子宮頸部上皮の癌化過程において, Dysplasia および Carcinoma in situ といわれる病変が重要視されている. 最近, われわれは, これらの変化上皮をprospectiveに追跡観察して子宮頸部上皮の癌化過程の一部を解明しようと試みている.

Smear test, Colposcopy および Punch biopsy の三者併用による厳重な注意のもとに Invasive cancer および追跡不適当な症例を除外し, 中等度および高度の Dysplasia 42例, Carcinoma in situ 9例について2カ月から1年6カ月にわたり追跡している.

Dysplasia 42例のうち, Invasive cancer 1例と Carcinoma in situ 2例を発見した. 前者は, 初回検査時には軽度の Dysplasia であつたが, 5カ月後に中等度の Dysplasia を呈し, 10カ月後に Invasive cancer となつた例である. 後者は, 2例とも高度の Dysplasia であつたが, 3カ月後に Carcinoma in situ となつた例である. 残り39例については現在追跡中であるが, 大多数は Colposcopy で異常所見は消失し, Smear test でも悪性化はみられない.

Carcinoma in situ 9例のうち2例に Invasive cancer を発見した. 追跡期間はそれぞれ2カ月および3カ月であつた. 4例は2カ月以内に消失し, 残る3例が現在消失しないままである. なお, 高度の Dysplasia から移行した2例は, 7カ月後の現在も Carcinoma in situ のままである.

まだ症例数も少なく, 追跡期間も短いため結論にはほど遠いが, 短期間の追跡観察で悪性化をたどる症例があり, 追跡して Invasive cancer となつた3例の剔出標本の大切片では, いずれも浸潤度5mm以内の早期浸潤癌の

周辺に豊富な Carcinoma in situ 像をみた. また, 同様な早期浸潤癌のある22例の大切片標本のうち17例に豊富な Carcinoma in situ 像を伴つており, あたかも Carcinoma in situ を経たかのように考えられた. よつて, Invasive cancer は, 多くは Carcinoma in situ を経過するのではないかと想像する.

なお, 今後も多数例の検索を進めたい.

#### 127. 子宮頸部初期悪性変化の組織像. とくに占居部位に伴う組織像の変遷について

(国立金沢)

遠藤 幸三, 小島 俊彦, 小林 清二  
松本 裕史, 立岩 孝, 西島 啓輔

子宮頸部の初期悪性化として, dysplasia (41例), 上皮内癌 (95例), 初期浸潤癌 (86例) をとりあげ, その占居部位と各部位における組織像の変遷を検索した. 3者はそれぞれ漸次的に移行するので, これらの境界域では明確な鑑別は困難である.

dysplasia および上皮内癌の初期は, 増殖傾向の弱い時期であり, この時期では病変上皮は起源の良性上皮の形態をなお保持している. 上皮内癌後期, 初期浸潤癌と進行すると, 上皮内の癌細胞の増殖によつて, 細胞は密集し配列が乱れて, 細胞質も変化し原上皮の形態が漸次失なわれる. この考え方に基いてこれらの上皮像を, 成熟扁平上皮型, 2層性上皮型, 中間型, 未熟型に分類し, その所在を検索した.

病変のひろがり, exocervix 側, endocervix 側にそれぞれ25mm以内にあり, 約90%は exocervix 側5mm, endocervix 側10mm以内に存在している. これは良性頸部における Reserve cell 増殖上皮の占居部位にほぼ一致する. 成熟扁平上皮型はきわめて少なく, 1~2%にすぎない. また未熟型は endocervix 側10mm以内に限局する傾向が強い. 2層性上皮型および中間型は, その多くは Reserve cell 増殖の末期の化性上皮の起源と考えられ, その占居部位, 未熟型よりも exocervix の方にややずれている.

#### 128. 子宮頸部上皮内癌の確定診断と腔拡大鏡診一占居型からみた臨床応用について

(慶応大)

栗原 操寿, 筒井 章夫, 宮原 宏次  
大塚 誠一, 脇田 幸一

研究目的: 上皮内癌の確定診断を合理化し治療指針を確立する.

研究方法: 上皮内癌25例, 初期浸潤癌?21例, 初期浸